

四、新しい段階を迎えた架橋問題

待望の瀬戸大橋の架橋問題は、去る二月二十九日の工費、工期の発表を以て、第二段階を迎えました。発表された結果については、目下詳細に検討しておりますが、一応常識的なものであって、一般の期待との間に大きい距離はないようであります。

もとよりこの工費、工期は、いわゆる「概算」的性格をもつものであつて、いよいよ設計の段階になると、もっと精度の高いものになるはずであります。それにしても世間一般は、各ルート別の優劣が一応ハッキリしてきたものと受取つておるようです。そしてその常識的な判断は、専門家の判断との間に大きい食い違いはないように受取れます。だからこの発表により、架橋問題が大きく前進し、とりわけわれわれの瀬戸大橋が有利に前面に押し出されてきたことも間違いないと思われれます。

この架橋問題が、漸くこの段階にまでまいりました背後には、岡山・香川両県知事をはじめと

する両県執行部、両県の県会議長を中核とする県議団、更にその促進に当たられた両県の民間の方々等の一致した努力の結晶であつて、われわれ国会議員団は、両県民並びに関係者各位に心から敬意を表する次第であります。

これから政府は、経済効果の測定を急ぎ、それをうけて、今年秋頃にはルート決定への総合的な検討を加え、なるべく早くその決定に持込みたいとしております。われわれの仕事は、これからの政府の仕事に一方において助力をしつつ、他方において十分監視の目をゆるめることのないようにしたいと考えます。これはこの問題の検討が、眞実を忘れて政治的に歪曲されないように注意する必要があるからであります。

いよいよ、本問題も第三コーナーに差ししかつております。われわれも、これまでの調査を踏まえて一層努力してまいる所存であります。県民各位におかれても、一層われわれを激励鞭撻下さるようお願いいたします。